

上陸第一歩 (1932)

メディア 映画

ジャンル ドラマ ロマンズ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 88分

初公開日 1932/04/14

【解説】

1928年製作のアメリカ映画「紐育の波止場」の設定を日本に置き換え、北村小松が脚色したラブストーリーを島津保次郎が監督した。島津にとっては初のトーキー作品。主人公の「港の女」を、水谷八重子（初代）が演じた。

火夫（釜に石炭をくべる船員）の坂田は、港に上陸した夜、船着き場で身を投げようとする女を助ける。彼女は「ブルジョアの政」というヤクザに売られそうになり、自暴自棄になって死を選ぼうとしていた。女は坂田の誠実さに惹かれるが、坂田はバーで政と諍いを起こし、誤って相手を死なせてしまう。ようやく女のもとへ戻ってきた坂田だったが、警察が彼を逮捕するためにやってきた。

【クレジット】

監督 島津保次郎

脚色 北村小松

撮影 水谷至宏

出演 水谷八重子 [初代]	港の女
岡譲二	火夫坂田
奈良真養	ブルジョアの政
江川宇礼雄	プロペラのしげ
河村黎吉	司厨長野沢
飯田蝶子	安宿のお神
吉川満子	酒場のマダム
沢蘭子	政の情婦
滝口新太郎	倉庫番戸村
岡田宗太郎	刑事